

緊急腹腔鏡下胆嚢摘出手術を施行した 高齢者胆嚢捻転症の1例

なが み はる ひこ き だに あき ひこ かわ ばた やす なり
長 見 晴 彦¹⁾ 木 谷 昭 彦²⁾ 川 畑 康 成²⁾
や の せい じ た じま よし つぐ
矢 野 誠 司²⁾ 田 島 義 証²⁾

キーワード：高齢者急性腹症，胆嚢捻転症

要 旨

症例は80歳女性で右季肋部痛を主訴に来院した。心窩部に圧痛を認め、白血球数増加，CRP 高値であった。上腹部エコーにより著明な胆嚢腫大と胆嚢結石を認めた。腹部 CT 検査では胆嚢頸部に約 2 cm 大の胆石，胆嚢壁腫大，胆嚢内の胆汁緊満，DIC-CT では胆嚢内への造影剤流入は認めなかった。以上より急性胆嚢炎の術前診断のもとに，入院当日に腹腔鏡下手術を施行した。腹腔内の所見は胆嚢は暗赤色調，著明に腫大し，血性腹水を伴い頸部で時計回りに約360度捻転していた。胆嚢捻転整復後に胆嚢摘出術を施行した。病理組織検査では胆嚢壁は全層性に出血性壊死を呈していた。術後経過は良好で術後 6 日目に退院した。胆嚢捻転症の術前診断は比較的困難であるが，確定診断から治療まで連続的に行える腹腔鏡下手術は大変有用と考えられた。また胆嚢捻転症は周囲との癒着も少なく，腹腔鏡下胆嚢摘出術の良い適応と考えられた。

はじめに

胆嚢捻転症は稀な急性腹症であり，従来は術前診断が困難とされ，急性胆嚢炎の術前診断の下に開腹下胆嚢摘出術施行される事が多かった¹⁾。今回，腹腔鏡下手術により胆嚢捻転症と確定診断できた 1 症例を経験したので，若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者：80歳，女性
主訴：右季肋部痛
家族歴・既往歴：高血圧症，骨粗鬆症
現病歴：2014年 9 月27日突然に右季肋部痛が出現し当院を受診し腹部エコーにて急性胆嚢炎，限局性腹膜炎と診断し緊急手術目的に大学病院へ紹介した。
入院時現在：血圧 134/86 mmHg，体温37.5℃，身長 156 cm，体重 48 kg。腹部は平坦，軟で，

Haruhiko NAGAMI et al.

1) 長見クリニック 2) 島根大学医学部消化器総合外科
連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1